

## プロジェクト写真



## 施設概要

主要用途：能舞台

構造：地下1階 地上1階

舞台棟：木造、見所棟：鉄骨造、展示室棟：鉄筋コンクリート造

建築面積：537.06㎡、延床面積：498.21㎡

最高高さ：8.230m、最高軒高さ：5.125m

所在地：宮城県登米市登米町寺池上町42

竣工：1996年

## 製作メンバー

設計監理：隈研吾建築都市設計事務所

構造：青木繁研究室

電気（協力）：山崎設備設計事務所

設備（協力）：山口設備研究所

壁画制作：千住博

サイン計画・展示計画：日本デザインセンター原デザイン研究所

能舞台監修：村松貞次郎、半澤重信

企画アドバイス：情報・空間デザイン

施工：建築/とよま建設共同企業体、電気/ユアテック

## 設計主旨

能舞台建築の伝統を踏まえながら、随所に新しく個性的な工夫がなされている。地元産素材を多用：舞台の柱は地元産のヒバを用い、屋根は登米町特産の天然スレート葺き。周囲の景観との融和：舞台には腰板をつけていないため、夜になると舞台は宙に浮いているような雰囲気となる。床下には足拍子の共鳴装置として配置された瓶を数個配置している。また、舞台と見所の間の白洲は広い空間を設け、白玉砂利ではなく黒い砕石を敷きつめて、森の暗さとの一体化を出すなど様々なところに工夫がみられる。

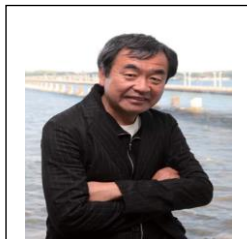
鏡板の絵は日本画家千住博氏の制作。“実際の大きな老松がそこに存在するような雰囲気が醸し出せれば”と述べる通り、正面松の絵は鏡板の枠内におさまりきれない大きさを天然緑青を用いて描かれている。脇(切戸口)の若竹は天然群青で描かれ、この青さは若さに通じ、また松の枝の緑が虚実の「実」を表し、竹の青さは虚実の「虚」を表している。能の「虚実の世界」の象徴でもある。

展示室は、アートディレクター原研哉氏によるもので、能装束や能面等をはじめ登米能に関する資料を展示している。

平成9年日本建築学会賞受賞。

※みやぎの明治村 伝統芸能伝承館「森舞台」HP より

## 設計者



所属：隈研吾建築都市設計事務所

名前：隈研吾

※みやぎの明治村 伝統芸能伝承館「森舞台」HP より

## アクセス

住所：  
〒987-0702  
宮城県登米市登米町寺  
池上町42

